

交付運用報告書

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは主として上場投資信託証券への投資を通じて、金地金に実質的に投資を行い、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）の騰落率に概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。なお、実質的な外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。
引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBS
ゴールド・ファンド
(為替ヘッジあり)

追加型／海外／その他資産（商品）／インデックス型

第2期（決算日2022年9月5日）
作成対象期間（2021年9月7日～2022年9月5日）

第2期末（2022年9月5日）	
基準価額	9,375円
純資産総額	314百万円
騰落率*	-7.5%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー
<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く)<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。
<閲覧方法>

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック
なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2022。キーンシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

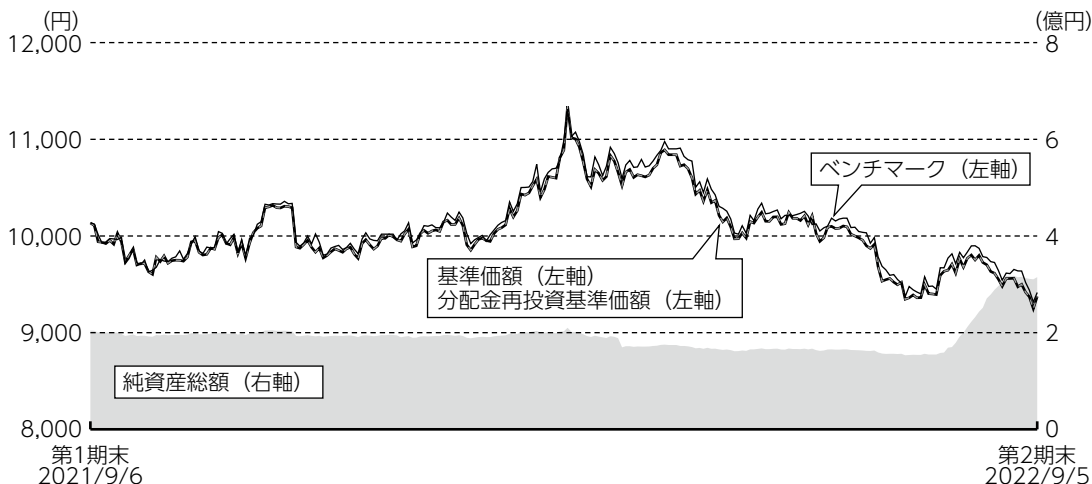
UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

運用経過

基準価額等の推移について

(2021年9月6日～2022年9月5日)



第2期首：10,135円

第2期末：9,375円（既払分配金 0円）

騰落率：-7.5%（分配金再投資ベース）

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で760円値下がりしました。なお、基準価額の騰落率は-7.5%となりました。

ベンチマークについて

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うに当たり、運用目標の基準あるいはパフォーマンスを評価するための基準です。なお、当ファンドのベンチマークは「ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）」を委託会社において円ヘッジ円換算した「ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）」です。また、当ファンドはベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

※ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格はICE Benchmark Administration Limitedによってロンドン時間の午後公表される金地金価格を指します。

基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、組入上場投資信託の下落や為替ヘッジコストが主なマイナス要因となり、値下がりしました。

1万口当たりの費用明細

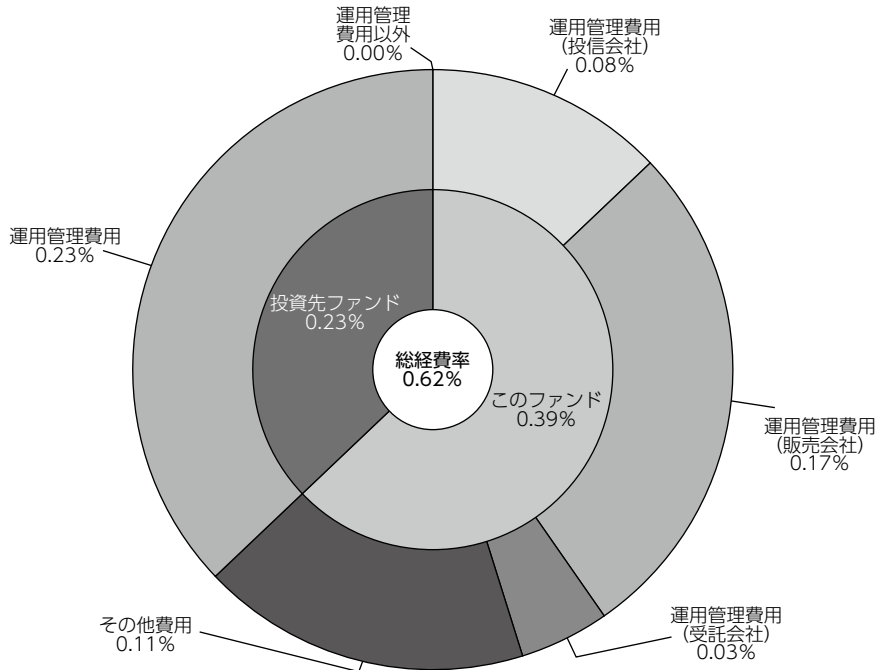
項目	当期 2021/9/7～2022/9/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	27円	0.274%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は9,988円です。
（投信会社）	（ 8）	（0.077）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（16）	（0.165）	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 3）	（0.033）	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	7	0.067	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（投資信託証券）	（ 7）	（0.067）	投資信託証券を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
その他費用	11	0.111	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	（ 3）	（0.030）	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	（ 2）	（0.022）	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	（ 5）	（0.055）	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	（ 0）	（0.005）	海外の税務手続きに関する費用等
合計	45	0.452	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

（注2）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（注4）各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(参考情報) 総経費率

総経費率 (①+②+③)	0.62%
①このファンドの費用の比率	0.39%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

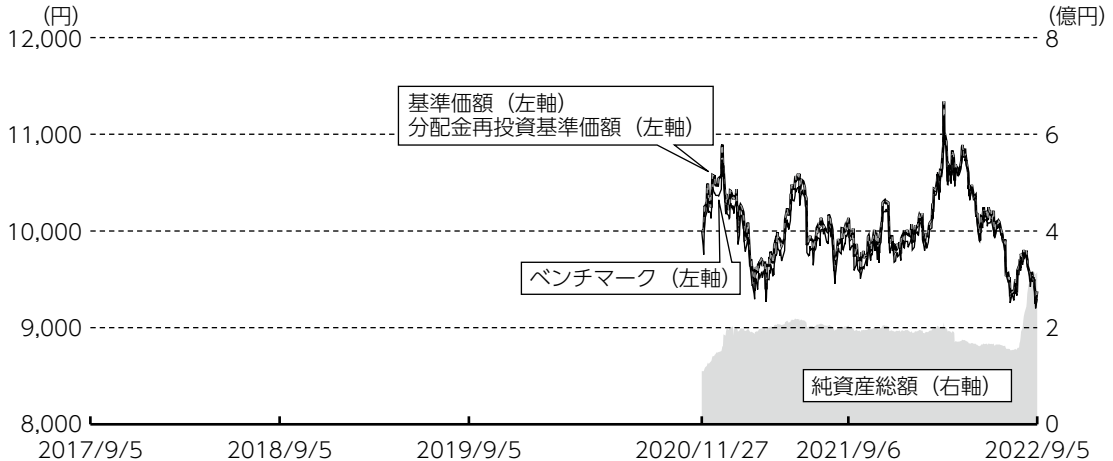
(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.62%です。

最近5年間の基準価額等の推移について

（2020年11月27日～2022年9月5日）



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、設定日（2020年11月27日）の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

(注4) 海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

	2017年9月5日	2018年9月5日	2019年9月5日	2020年11月27日 設定日	2021年9月6日 決算日	2022年9月5日 決算日
基準価額 (円)	—	—	—	10,000	10,135	9,375
期間分配金合計（税込み） (円)	—	—	—	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率（％）	—	—	—	—	1.4	△ 7.5
ベンチマーク騰落率（％）	—	—	—	—	0.1	△ 7.1
純資産総額 (百万円)	—	—	—	110	204	314

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」、「ベンチマーク騰落率」および「期間分配金合計（税込み）」は、表中の直前の決算日または設定日からの騰落率および分配金合計（税込み）です。

投資環境について

当期の金価格は下落しました。期の前半、世界的なインフレ懸念の高まりを背景とした金需要の増大に加え、2022年2月にはロシアのウクライナ侵攻を受けて有事の安全資産とされる金を買われたことから、金価格は上昇しました。しかし期の後半は、米連邦準備制度理事会（FRB）が積極的な金融引き締めを実施し、米国金利が上昇した影響などにより金価格は反落しました。

ポートフォリオについて

当ファンドのポートフォリオについて

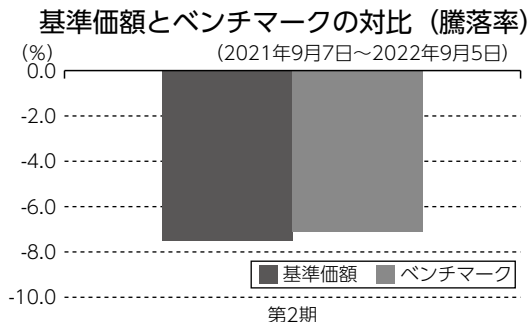
上場投資信託であるUBS ETF（CH）ゴールド（USD）およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を投資対象とします。主として上記上場投資信託への投資を通じて、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）の騰落率に概ね連動する投資成果を目指しました。外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。上記上場投資信託の組入比率は、期を通じて高位を維持しました。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債に投資を行い、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、コール・ローン等での運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当期の騰落率は、基準価額の－7.5%に対してベンチマークが－7.1%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を0.4%下回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を下回った主な要因は、信託報酬の負担などによるものです。



(注) 基準価額の騰落率は分配金再投資ベース

分配金について

市場動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項目	第2期
	2021年9月7日~2022年9月5日
当期分配金	-円
(対基準価額比率)	(-%)
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	-円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドの今後の運用方針

UBS ETF (CH) ゴールド (USD) の投資比率を高位に維持し、ベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。また、外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図ります。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の今後の運用方針

短期金融市場の状況を注視しつつ、UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、コール・ローン等で運用する予定です。

お知らせ

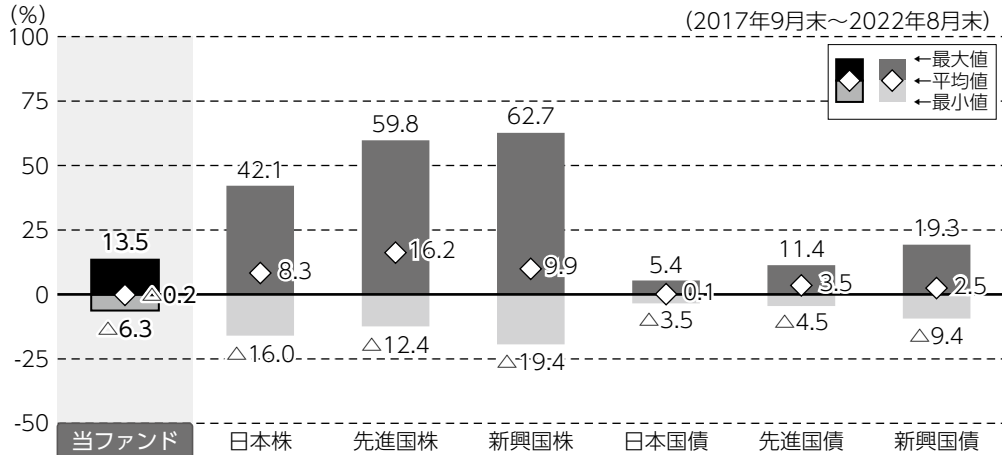
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型／海外／その他資産（商品）／インデックス型	
信託期間	無期限	
運用方針	主として上場投資信託証券への投資を通じて、金地金に実質的に投資を行い、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）の騰落率に概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。なお、実質的な外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。	
主要投資対象	外国上場投資信託であるUBS ETF（CH）ゴールド（USD）（以下「指定上場投資信託」といいます。）および国内投資信託であるUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）（以下「指定内国投資信託」といいます。）の投資信託証券を主要投資対象とします。	
	UBS ETF（CH）ゴールド（USD）	金地金を主要投資対象とします。
	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な主要投資対象とします。
運用方法	指定上場投資信託証券の組入れについては高位を維持することを基本とします。	
	UBS ETF（CH）ゴールド（USD）	金地金への投資を通じて、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）に概ね連動する投資成果を目指します。
	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	直接投資を行う場合の公社債については、原則として、購入時においてS&P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所のうち1社以上の格付機関より、Aa3/AA-以上の長期格付けが付与されたものに投資を行います。また、購入時において残存期間が2年以内の公社債とします。 UBS短期円金利プラス・マザーファンドの組入れについては、50%以上を維持することを基本とします。 <UBS短期円金利プラス・マザーファンド> 代表的銀行の3ヵ月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。
配分方針	<p>毎決算時（原則毎年9月5日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、上記①の範囲内で、市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、委託者の判断で、分配を行わないことがあります。</p> <p>③収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。</p>	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- *全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- *2017年9月から2022年8月の5年間（当ファンドは2021年11月から2022年8月）の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- *騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- *騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（TOPIX） （配当込み）	東証株価指数（TOPIX）に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス （配当込み、円換算ベース）	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス （配当込み、円換算ベース）	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス （除く日本、円換算ベース）	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド （円換算ベース）	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

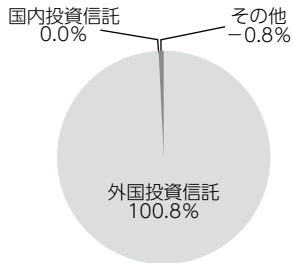
(2022年9月5日現在)

組入上位ファンド（銘柄数：2銘柄）

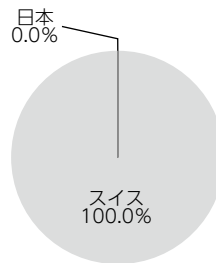
銘柄	比率 (%)
UBS ETF (CH) ゴールド (USD)	100.8
UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

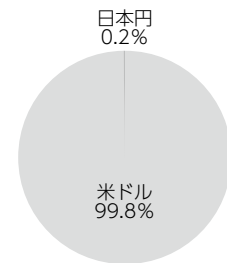
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

純資産等

項目	第2期末 2022年9月5日
純資産総額	314,792,522円
受益権総口数	335,771,928口
1万口当たり基準価額	9,375円

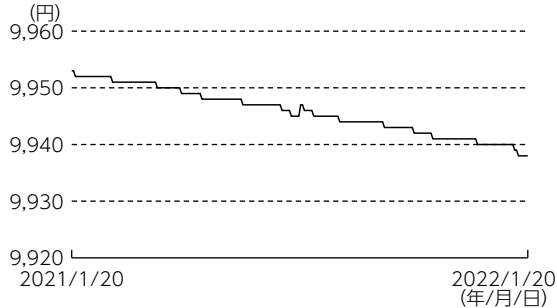
(注) 当期（第2期）中における追加設定元本額は200,935,600円、同解約元本額は66,727,666円です。

（2022年1月20日現在）

組入上位ファンドの概要

◆UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）

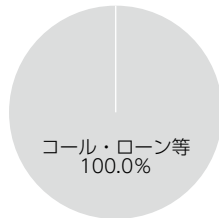
基準価額の推移（2021年1月20日～2022年1月20日）



組入上位銘柄

2022年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

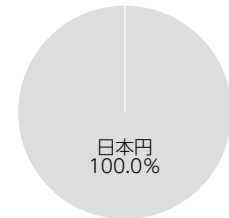
資産別配分

コール・ローン等
100.0%

国・地域別配分

2022年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

通貨別配分

日本円
100.0%

(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 上記のポートフォリオの内容は、組入れられたファンドの投資資産を表示しております。なお、直接投資しているのはマザーファンドですが、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はその先の投資資産を表示しております。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2021/1/21～2022/1/20	
	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%
（投信会社）	(1)	(0.011)
（販売会社）	(0)	(0.001)
（受託会社）	(3)	(0.032)
その他費用	0	0.002
（その他）	(0)	(0.002)
合計	4	0.046

※期中の平均基準価額は9,946円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。